

84 へらいだけ 戸来岳 (1159m) ~ 85 とわりさん 十和利山 (991m)

地域 三八上北地方  
2008年10月27日

[ルート] 大駒ケ岳→三ツ岳→大文字山→十和利山  
[参加者名] CL H.NAKAMURA 他9名  
[コースタイム] 大駒ケ岳登山口7:50→林道と合流地点8:45→大駒ケ岳 10:15→三ツ岳  
10:57→大文字山12:00→十和利山13:20→  
迷ヶ平到着(十和利山登山口)14:10

[登山口までのアプローチ、登山口の様子]横内P. 4:55→子ノ口交差点6:10→宇樽部(休憩)6:20→(454号線へ)→迷ヶ平到着6:35(T.Yさんと待ち合わせ)大駒ケ岳登山口へ出発7:00→妙返川林道→平子沢.キャンプ駐車場到着7:30

[山行記録]

暗がりの雨の中、奥入瀬溪流沿い道に枯葉が散りかけ晩秋のたたずまいを走るうちに迷ヶ平に予定時刻より早く到着。T.Yさんと待ち合わせる。大駒ケ岳への登山口まではこの先の妙返川林道を通り30分程で広々とした平子沢キャンプ場の駐車場に着く。登りの準備をしている間カツラの木の甘い香りが。標高420m地点からの出発、登り口の看板に大駒ケ岳まで4.6kmの表示があり、舗装された道を30mほど登り左折し山道に入る。道幅は広く2重3重に落葉が敷き詰められミズナラ・カエデ・ブナの黄葉が美しい。雨は上がりブナの樹幹流が木肌を濡らし艶々と光っている。まもなく林道と合流し真正面に大駒ケ岳が見える。林道の20m先の案内板を右に登ると平坦な道に。カツラの木の甘い香りの中を進むにつれてブナやミズナラの木が段々と太さを増して道幅は狭くなり、急な登りに雨で濡れた黒土は滑りやすく、僅かに突き出た石や踏み跡に足を掛けながら登って行く。雨も降り出し高度を増すごとにダケカンバとササが目立つように。急斜面を登り終えると登山道は平坦に。道の両側には赤い実を付けたイチイの木が数メートル並んで生えている。最後の登りを終えると大駒ケ岳頂上に。頂上は雲が垂れ込み風が強く寒い。標識には「三ツ岳まで1.1キロ・60分」と表示が。少し休憩し三ツ岳へ向かう。この頃から雨と風が激しくなり急な下り坂に足元を注意しながら両側に生えているササを掴みながら下って鞍部に。そこから見る三ツ岳は山全体がササに覆われている。鞍部を過ぎると急登に、ササで滑る足元に注意しながら一步一步と確認しながら、皆が黙々と登り終えると一面が草地にアザミの花が2~3咲いていて、左側に大文字山への踏み跡を過ぎると三ツ岳の頂上に到着。少し早めの昼食を済ませ大文字山へ向かう。ササの急斜面をササに掴まり体を支えながら下って行くと途中でハンキ・ナナカマドの樹林帯で道は緩やかな登りに。大文字山は見過ごししまいそうな尾根でダケカンバがほとんど葉を落とし晩秋を感じさせる。十和利山へはなだらか山道を登りきると60分程で頂上に。頂上は悪天候で残念ながら展望が出来ず早々に下山。登山分岐点を通りブナ・カエデ類の黄葉が綺麗な迷ヶ平自然休養林を通り鳥居を抜けると登山口に辿り着く。 報告 M.HANADA



2009年10月18日

- [ルート] 「友情と希望の森」看板⇄ドコノ森山頂  
 [参加者名] CL M.KIKUCHI 他7名  
 [コースタイム] 横内 P6:00→宇樽部 Pトイレ 7:15→迷ヶ平 7:25→登山口(「友情と希望の森」看板)  
 7:50~8:15→休憩 8:40~8:50→477P8:55→堰堤 8:14→林道 9:55→ドコノ森山頂  
 10:55~11:05→林道 11:36~昼食 11:40~12:05→登山口 12:55→横内 P 15:25

## [登山口までのアプローチ、登山口の様子]

十和田湖経由で迷ヶ平へ。三戸方向を目指して進む。県道 21 号線を田子方向へ進むと道幅が1車線から2車線に増幅になる。車線の変り目の左側に「青森県初の連携型中高一貫教育導入記念・友情と希望の森」の大看板があり、数台駐車可能な広場がある。広場左には車で入れそうな幅の林道がのびていて、以前は車が入っていたと思われるが徒歩で進んでみると間もなく道はかなり荒れていて車ででの進入は無理。

## [山行記録]

登山口探しと藪こぎがあり、行動時間か読めない部分があるので出発時刻は早めに設定、横内P出発は早朝6:00。茅野茶屋高原・酸ヶ湯の紅葉はすっかり終わって木々の葉は茶色、焼山・奥入瀬溪流・子の口・十和田湖の紅葉は黄色が少し目につく程度でこれからが本番の様子。早朝なので観光客の姿はまだ見えず。宇樽部にてトイレ休憩。このトイレ駐車場を左折して454号線を迷ヶ平へ。迷ヶ平から県道21号線を進み田子を目指す。途中、別ルートがあるということで車窓からそれらしき形跡を探してみるも見つけることはできず、小国牧場の中をそのまま進む。緑の牧場に群れる牛と澄み渡る青空と色づいた山々の牧歌的な風景に心が癒される。

21号線道が1車線から2車線へと増幅されている個所の左側に空き地があり「青森県初の連携型中高一環教育導入記念・友情と希望の森」の看板があり、確認したところ、ここがドコノ森山の登山口と判明。看板前広場は3~4台駐車できる。この先にも車が通れる幅の林道は続いているが道路状況がわからないので徒歩で進むことにした道は前方と右に分かれているが右に進む。沢から流れる水が道の上を勢いよく流れていたが歩行には差し支えない。この時期にしては暖かい日で、ゆるい登りの林道歩きでも汗ばんでくる。紅葉もちょうど見ごろ。

林道の分岐一つ目・二つ目は左方向に道をとる。477P、分岐左の草地に名残のウメバチソウが数輪咲いていた。次の分岐を左へゆるく下り、カーブミラーから右へと進むと間もなく道はかなり背の高い草が多くなり利用されていないとおもわれた。道左は谷で、堰堤がある。道右は崖になっていて崩れ落ちた大石や木が道のあちこちに転がっていた。この場所から先の道は途切れて無い。いよいよ藪こぎだ・・・と右の林を抜けることにして藪に入る。踏み後らしい形跡があったり・・・斜面を登ること25分程、広い林道に出た。林道に出る手前あたりにポット苗が入っている空容器を数個見つけたが、近年植林されたと思われる場所がみられた。林道を横切り再び山頂を目指して林の斜面に取り付く。奈良さんが「目印に」と赤色のバンダナを裂いて木に結びながら進んでいた。藪が少ない沢筋から登り、間もなく開けた尾根にでた。左手には戸来岳の二つのピーク・十和利山が見え前方に見えるピークがドコノ森の山頂なのだろう・・・しっかりと道が確認でき安堵。背丈を越す竹藪で前を行く人を見失いそうになり、声を掛け合いながら前進。Y.Nさんはなおも目印をしっかりと付けていた。ほぼ平坦な道を進むと間もなく山頂に到着、竹藪の中で展望はない。「ドコノ森」の手製の標識が三つ、三角点も確認した。皆笑顔で記念写真。尾根からは戸来岳中腹にかかった虹のアーチを見つけて歓声をあげた。



目印を回収しながら林道まで戻り、少し早めの昼食タイム。休憩後は林道をそのまま進み下りると登りの時にウメバチソウを見た林道分岐で合流。登山口までは心地よい陽の暖かさを身体いっぱい浴び、彩り豊かな景色を存分に楽しみながらの林道歩きで、12:55計画よりかなり早い時間の登山口着でした。

報告 H.HARADA